2019年 SOTO禅インターナショナル
総会のお知らせ

日 程／2019年2月12日(火)

15時より 定例総会

会 場／檀信徒会館 菊の間

17時より懇親会を開催いたします。

【 詳細は参加者に後日お知らせいたします 】

※出席のお申込みは、メールまたは電話･FAXで下記までお願いします。

【問い合わせ先】ＳＺＩ事務局 淺井宣亮 jizoji@ma.medias.ne.jp

TEL/FAX 0562-44-4936（留守番電話の場合は、メッセージをお残し下さい。）

CONTENTS

▶巻　頭　変革の時代に……大本山永平寺監院　小林　昌道　2
▶特　集　両大本山ワークショップ抄録
洞松寺の行住坐臥……岡山県洞松寺専門僧堂堂長　鈴木　聖道　3
▶海外レポート　①北アメリカ国際布教総監部 現職研修会に出講して……愛知学院大学准教授・宮城県城国寺副住職　菅原　研州　9
②曹洞宗南米別院仏心寺の現在……富山県明禅寺住職　佐藤　鴻舟　10
③アイエア太平寺開創百周年記念慶讃法要に参加して　……ＳＺＩ会長・新潟県雲洞庵住職　田宮　隆児　11
▶国内レポート　「第29回WFB世界仏教徒会議・第20回WFBY世界仏教徒青年会議・第11回WBU世界仏教徒大学会議 日本大会」報告
……公益財団法人全日本仏教会 広報文化部次長　下島　章裕　12
▶ＳＺＩ主催 2017年 第3回 海外子弟研修会 in ハワイ報告……13
▶ＳＺＩ主催 2018年 第4回 海外子弟研修会 in ハワイ報告……18
▶SZI express　会費納入者・賛助金納入者名簿……22
▶国内ニュース　第15回「禅といま」寒中勉強会／ＳＺＩ REUNION 2018 in 伊香保温泉 結集／動静報告……23
▶SOTO禅インターナショナル総会のお知らせ……24

SOTO 禅 インターナショナル

2018年
Vol.59

発行日　2018年12月22日
発行人　田宮隆児
編集担当　佐藤慧真
発行所　SOTO禅インターナショナル事務局
〒474-0052 愛知県大府市長草町本郷40 地蔵寺内
TEL/FAX 0562-44-4936
地蔵寺 TEL 0562-46-1963
URL http://www.soto-zen.net/

9月3日 大本山總持寺
国際布教関係物故者法要

9月5日 大本山永平寺
両大本山ワークショップ「洞松寺の行住坐臥」

世界中から修行僧が集まる
洞松寺専門僧堂の行鉢の様子

南米別院仏心寺のアバレシーダ観音法要
10月、雨天のため本堂で行われた

2017年12月 第3回海外子弟研修会
駒形宗彦ハワイ国際布教総監と参加者等

2018年8月 第4回海外子弟研修会
ホノルル空港に到着した一行と引率の吉田宏得師

巻 頭

変革の時代に

大本山永平寺 監院 小林昌道（こばやししょうどう）（群馬県徳巌寺住職）

SOTO禅インターナショナル会員の皆様には、曹洞禅の国際布教活動にご尽力いただき感謝いたしております。また、平素より大本山永平寺のことにつきましては深いご理解とご協力を賜り御礼申し上げます。

さて、世相を眺めるとデジタル技術の進歩普及により、近年社会構造は大きく変化してきております。その反面、地球規模で解決しなければならない人口爆発、食料や資源の枯渇、大規模自然災害、環境破壊等の課題が顕在化しております。また国内においても解決しなければならない人口減少、少子高齢化、社会資本の劣化などの課題が山積し、正にいのちの危機の時代にあるといってよいでしょう。

禅は、「而今」の語にあるとおり「今、ここを、生きる」ことを私どもに指し示してくれています。今をどう生ききるかは人間にとって命題といっても過言ではありません。

しかし、今生きるには変わるべきものと変わってはならないものを見極める力を備えることが肝要になります。一人一人が、変革の時代の只中にあってどう生きるかの確固たる哲学を持つことです。

道元禅師様が、凡そ770年前越前の地に永平寺を開創されましたのは「一箇半箇接得」に表されるとおり真の求道者の育成を目指されてのことであります。それは、有為の人材が打出されることによって世の平和に寄与するということでありましょう。人材に勝るものはありません。

変革の時代にあって原点を見据えて確かな人材を共々に育成し、曹洞禅の発揚に繋げていくことを念願するものであります。

Preface

Entering an Era of Change

The Reverend Shōdō Kobayashi
Administrator of Daihonzan Eiheiji

I express my sincere gratitude to the members of Soto Zen International (SZI) for all your efforts and contribution in the international dissemination of Soto Zen Buddhism. Furthermore, on behalf of Daihonzan Eiheiji, I would like to thank SZI for your kind understanding and cooperation throughout the years.

Now, in recent years, when looking at the world that we live in, with the advancement and popularization of digital technology, we can't help but notice the large changes in the structure of society.

On the other hand, the many problems that we have in the world that we need to find solutions for such as; the explosive population growth, the drying up of our food and resources, large scale natural disasters, and the destroying of the environment are all critical issues that stand right before our eyes. On top of that, we have mounting national issues that we need to deal with such as; the decreasing population, the declining birthrate and an aging population, and the deterioration of social capital. In fact, we can say that we are living in an age in which we need to cope with these serious matters on a constant basis.

Zen teaches us "to live in this very moment, here, now" which comes from the words *NIKON* which can be translated as "There's no other time than now". It is possible to say that for us, human beings, the constant theme in our life is "how should we live our life at this very moment."

However, it becomes essential for us to have the ability to determine what things in our life we need to change, and what things should remain the same. Each of us should have a firm stance and a principal on how we should live our lives in the midst of this ever-changing world.

Zen Master Dogen founded Eiheiji in Echizen about 770 years ago with the purpose of training and cultivating the people who were sincerely searching for the truth as is expressed in the teaching *IKKOHANKO NO SETTOKU* which can be translated as "to train the precious individuals who have severed their ties with the world and have put their heart and mind into zazen". His intention was to contribute to peace in our society by producing people who were wise and capable and sending them out into the world. Because, after all, there is nothing more important than having people like this in the world.

In closing, I wish that in this era of drastic changes, without losing sight of the original intention of Dogen Zenji, we will all work toward the cultivating of capable individuals with the right vision and purpose, and that will in turn raise the morale and enhance the reputation of Soto Zen Buddhism.

特集 両大本山ワークショップ抄録

［平成30年9月3日（月）於 大本山總持寺／9月5日（水）於 大本山永平寺］

洞松寺の行住坐臥

講師 鈴木聖道（すずきせいどう）（岡山県洞松寺専門僧堂堂長）

講師の鈴木聖道老師

講師プロフィール

岡山県洞松寺専門僧堂堂長・曹洞宗国際布教審議会委員・師家
大樹寺・大本山永平寺・瑞應寺専門僧堂にて修行、北米駐在開教師・中国管区教化センター統監を歴任

洞松寺専門僧堂

20人以上の修行僧の半数が海外からの僧侶、テレビもラジオもインターネットも無く新聞も来購読、地元と結びついた托鉢が5日に一回行われ、また毎月の撮心をはじめ、日々徹底して綿密な修行が行われている。

初めまして。岡山県洞松寺専門僧堂の堂長、鈴木聖堂です。

この度はSOTO禅インターナショナルの会長様よりご本山でお話するようにということでしたが、私は海外に国際布教師として行っておりましたが、SOTO禅インターナショナルという会があるのを知らず、会報を送ってもらって初めて知りました。長い間素晴らしい活動をなさっていて感心しました。私はこのような立派な活動は出来ていませんが、私のところに海外から沢山修行僧が来ているということでこの講演をお引き受けしました。私の話で皆さんのためになれるか分かりませんが、少し貴重な時間をいただきたいと思います。

洞松寺の復興について

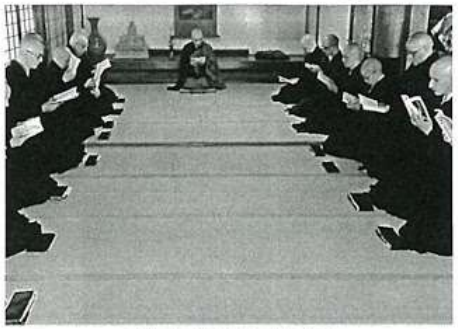
洞松寺は1412年に喜山性讃禅師という方が復興されるまでは法相宗のお寺でありました。ちょうど私で100代目であります。先住は赤松月船老師で、この方は御詠歌の作詞をなさっていて、宗門の御詠歌の36曲ぐらいを作詞なさっています。海外や僧堂の御詠歌、例えば瑞應寺様ですね、他にもたくさん作っておられます。この方が病気で平成元年より10年間入院なさり、その後100歳で御遷化されてからさらに10年間無住でした。合わせて20年の後に私がお願いされ見に行った時は全山大変荒廃しておりました。瓦が沢山落ちていてどうなるかとため息をついたことを覚えております。お金もない何もないどうやってこれを復興するかと思ったのですが、そうしましたらある住職さんが奥さんと2人で2時間以上かけてやって来られ、障子を毎日貼り替えてくださったんです。遠いところから通ってくださる、その姿に背中を押されまして、復興しようという気になりました。

洞松寺専門僧堂として開単

何にも無いところから始まりまして洞松寺専門僧堂として平成21年に認可されましたが、当時は非常に少ない雲水でやっていました。ある時雲水が粥を炊いてくれたんですが、これが重湯になっておりまして、「あなた水の分量を間違えたね。」と言うと、「違います。もうお米がないんです。」と言うんです。「無くなる前に言いなさい。」と言いましたが、そんなこともありましたね。あと、ガスを持ってきてくれとガス屋さんに頼んだんですが、20年無住だったせいか、ガス屋さんも信用してくれなくて、持ってきてくれないんです。今の時勢でこんなこともあるのかと不思議に思いましたが、何ヵ月もガスの無いまま朝の粥を炊いてみんなで食べていました。でもそういった時が一番修行にはなっていたかなと思っております。最初はコウモリと一緒に安居していました。禅堂の上に沢山住んでいて、3ヵ月坐ったら出ていきました。

そんな風に始めたわけですが、海外の人がどうして集まるようになったかというと、今から34年前、1984年に私は北米に国際布教師として赴任したのですが、そのご縁があって帰国してから向こうの方が参禅に来ておりましたので、その延長上で今やっているようなことです。だいたい今までで26ヵ国から来ています。どういうところから来ているかというと、皆さんびっくりされるかもしれませんがアイルランド、イギリス、ノルウェー、

今までだいたい26ヵ国から修行僧が来ている



言葉の壁を乗り越えて共に学ぶ

スウェーデン、オランダ、デンマーク、スイス、オーストリア、ポーランド、チェコ、ブルガリア、フランス、イタリア、ドイツ、スペイン、ポルトガル、ギリシャ、コンゴ共和国、オーストラリア、ニュージーランド、アメリカ、カナダ、ブラジル、チリ、アルゼンチン、キューバです。コンゴから来た方が着いた日はまた冬で暖がないものですから、上山したその日に「寒くて耐えられないので帰らせてください。」と言うんです。「今来たばかりなんだから。」と説得したら、我慢して一年修行して帰っていきました。

日本語を話せない人もいますので、英語を共通語として出来るだけ伝達するようにしています。英語も話せない人はフランス語を話す人が通訳したりとか、そういう方法で行っております。なかなかむずかしくて伝わらないこともありますが、皆さんご存知のように禅というのは言葉は要らない。しゃべると余計に悩み事が増えるかもしれない。黙って黙々とやっていく。「体解大道」といいますね。道を身体でもって体得していく。それが大事なことでありますから。「潜行密用」、誰もやりたがらないことをだまってやる。言葉はあまり関係ないと思います。そうやって弁道法に則って修行いたしております。道とはなんぞや、法とはなんぞや。常に参究です。

修行の様子

洞松寺の安居は4月15日から7月15日までが夏安居、10月15日から1月15日までが冬安居で、ただいま18人おります。尼僧寮もあります。中から鍵がかかります。浴司のことなど難しい面もあるのですが、いろいろ四苦八苦しながらやっております。浴司といえば五右衛門風呂がありまして、これを知らない人もいて、見に行ったら水を入れ忘れ空焚きして燃えていたようなこともありました。

参禅者も結構沢山来ます。3ヵ月ぐらいいる人もいます。この間ドイツのカトリックの修行道場に20年いた尼僧さんがやって来たのですが、大変感心しました。いる間中作務をしていました。よく作務をし、よく坐禅する。本当に熱心に務めていきました。我々日本人は修行道場にそう長くはおりません。最近はお師匠さんに早く帰ってこいといわれるものだから、長くても2年3年で送行される。今一番長い人は8年おりますが、海外の人です。ですから海外の人が日本の僧侶にいろいろ教えている光景が見られます。その次は7年、4年…。一人は近くのお寺の留守番に行きました。あまり檀家のないお寺で本人は日本語はあまり出来ないのですが、毎日檀家さんが来て喜んで掃除などしていってくれるのだそうです。

アルゼンチンから来ている方は向こうで空手を教えていたのですが、禅も一緒にやっていて、30人の弟子は全員仏教徒になったそうです。彼は私の所で嗣法して「もうアルゼンチンには帰りません。日本にいます。」と言っています。向こうは弟子が後を継いで空手と禅を一緒にやっているようです。

それからアメリカの人でこの方は向こうで知り合った方なんですが、キリスト教の方で一度カトリックの修行道場へ入る前にこちらに来て修行がしたいということだったので、いつでも来なさいと言ったのです。その後しかし2年間ずっと音信不通となりどうなったかなと思っていたのですが、その後長い手紙が来まして、カトリックの修道院に修行に入って2年間外部との接触を断たれていたということでした。手紙も出せないなんて、大変厳しいんだなと感心した次第です。その手紙を読むと涙が出るぐらいで、命がけの修行をしているのだということが分かりました。我々の修行の有様を反省しなくてはならないと思わされる、そんなことでした。

国際布教に携わっていた頃のこと

私は34年前にロサンゼルスとニューヨークに国際布教師として赴任していたのですが、そこに(キリスト教の)僧院がありまして、そこから週に一回2人が坐禅に来ておりました。一人は院長さんで一人はそこで修行している方でした。それで招かれて私もその僧院に何度か行きましたが、小さい部屋が一人ひとりに設けてあってこれはいいなと思ったんですが、そこに坐蒲と座蒲団が整然と並べてありまして、後ろに御香が立てられるようになっていました。禅堂に来た時だけ坐っているのかと思っていたのがそうではなくて、そこで毎日坐禅をしているというのでびっくりしました。他の修道院から来た人と一緒にそこで坐禅をしているということだったのです。宗派を超えて坐禅は受け入れられているのだなと思ったことでした。

それから当時刑務所の慰問にも何度か行きました。殺人を犯した人が入るニューヨークでも一番大きな頑丈な刑務所だったんですが、私一度パスポートを忘れて入れてもらえなかったことがあるんです。それで車を止めて塀の周りを歩いて回っていたら、上から銃を向けられました。そのままたたずんでいたらパトカーが来て後で中に入れてくれましたが、「あそこを歩いちゃだめだ。撃たれるから。」と言われました。刑務所の中には非常に広いところがあって、一室に坐禅をするところがあり、木魚と鐘が置いてありました。その木魚も手作りのもので、「般若心経」を全部暗記して読んでいるのにびっくりしました。聞きましたら我々が行く以前には臨済宗の佐々木老師という方がずいぶん長く行かれていたとのことでした。広くて芝生があり、想像以上に広くてきれいなところでした。私が食事のためにテーブルにつくと、侍者のようにさっと慣れた手つきでお皿やコーヒーなどサービスしてくれました。そこには仏教の部屋、禅の部屋、カトリックの部屋、イスラム教の部屋、ユダヤ教の部屋がそれぞれありました。そこでそれぞれ活動されているということでした。

我々の修行とは

記得す、僧睦州に問ふ、「一言に道ひ盡す時如何。」州云く、「老僧個が鉢囊裏に在らん。」又僧雲門に問ふ、「一言に道ひ盡す時如何。」門云く、「古今を裂破す。」人あり、山僧に「一言に道ひ盡す時如何と問はば」と云って拂子を擲下す。衆皆頭を擧す。師云く、「可惜許、一柄の拂子。」

睦州という方に僧が「真理を一言でいったらどうなりますか？」と問う。「お前さんの応量器の中」。今度は雲門に問う。「過去現在未来を裂破す。」どういうことでしょう。お釈迦様が花を拈華された。道元禅師は払子を投げた。大衆は分からないから首を垂れる。道元禅師は「ああ残念だ。この払子が分からないのか。」と言う。というような問答でありますが、これが我々の修行ですね。瑩山禅師は「心地を開明す。それが坐禅だ。」高祖様は「只管打坐」。同じことであります。毎日まいにちの生活の中で道を行じていく、それが修行なんですけれども。昨日やったとか明日やるとかでなく、今ここでやる。宗門の禅で一番難しいのはやはりそれを行じていくということなんです。なかなかそれが出来ない。難行をねんごろにと。誰もが嫌がってやらないことを密かにやっていく、誰も見ていないところで密かにやっていく。そうするとその積み重ねが心地を開明する。身心脱落の様相が自己に現れてくるという。この老僧が「あなたの応量器の中にある」と。「古今を裂破」それは今ここをおいてほかにないんだ、時間もこの刹那消滅、今だけ。だからお釈迦様の拈華も高祖様の払子もすべてその行為なんです。その行為とは何かということが大事なんです。まあ後で参究していただきたいと思います。

私の所は托鉢にしょっちゅう出ます。そうするといろんなことに出会って、自分の情けなさ力の足りないことがよく分かります。相手の気持ちもよく分かります。2と7の付く日に行くんです。何回も何回も行くんです。町の人は大変かも分かりませんが。

お釈迦様からずっと伝わってきたことですね。お釈迦様の時代は午前中に托鉢し午後からはしません。朝、昼前に托鉢に出かけて、みんなで分けていただく。お昼に遅れたらもう食べられない。私は大学の時パーリ語を習っていたのですが、ビルマの長老が食事の時間を過ぎたら外をゆっくり素足で散歩しておられるのを見ました。本当にゆっくりで、経行はああやってやるのかなと思いました。午後からは托鉢は出来ませんから、もう坐禅をする。

出家したら皆さん古人の道を一つ一つ踏み行っていく。それが大切なことだと思いますが、なかなか出来ないですよね。僧堂にいるときは出来るが、御寺坊に帰っ

行鉢も如法に行われている

たらなかなかそういう生活は出来ません。出来るだけ長くご本山で修行されたらいいと思います。

世界に広まる禅

世界中に禅が広まりつつあります。洞松寺に26ヵ国から修行に来ているという現実があります。チェコから来た人は、「向こうには誰も先生がいません。チェコに来てください。グループがあり坐禅もしていますが導く人がいないのです。老師に来てほしいんです。」と言います。皆さんぜひ行ってあげてください。一度外へ出ると、見る目がまた変わって来ます。新しい見方が出来るし、新しい価値観を見つけることが出来ます。それは素晴らしいことですから、皆さんぜひ海外へ研鑽して、そういうところへ行って坐禅の指導をしてもいいし、道元禅師様の坐禅を世界中に広めてください。必ず「只管打坐」の坐禅は大きな力を持っております。それだけはもう確信しております。

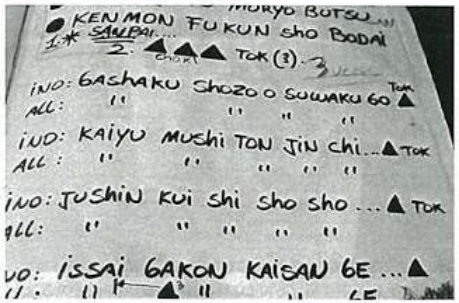
それから洞松寺の修行僧の中には仕事の都合で3ヵ月しか居られないという方もあるわけですが、真剣ですよ。真剣に坐禅しています。毎月一度しか攝心は出来ませんが、その時は無言攝心です。一言もしゃべってはいけない。各寮に帰ってもしゃべってはいけない。それはもう徹底しております。みんな頑張っております。ビデオがありますのでそれをご覧いただければどういう修行をしているか分かっていただけると思います。ご覧ください。

※以下寺報の記事の紹介(大本山總持寺)、ビデオ上映(両大本山)が行われた。

洞松寺報(平成29年5月1日号)より

◆ドイツ禅光寺徒弟　ワグナー法人

私の名前は法人です。53歳になります。ドイツ南部バイエルン州の小さな町に妻と共に住んでいます。職業は眼鏡技師です。私の住んでいる町で小さなグループと共に坐禅をしています。年に4～5回ドイツ北部の寂光寺まで出掛けて私の師のテンプロイ天龍師の下で攝心の修行をします。



長年、或る一定期間集中して禅の修行が出来る機会はないかと探し求めてきました。そしてようやく日本に来て洞松寺で秋の安居に参加することが出来ました。ここ洞松寺で日本の禅仏教と僧院生活を、他の国々の方たちと共に学ぶ素晴らしい機会に恵まれました。この機会を通して私の修行が深まりこれからの修行への励みになることと願っています。

堂頭老師、私の師のテンプロイ天龍師、そして私がこうしてここに居られるようにして下さった方々にお礼を申し上げます。

◆フランス法林寺徒弟　バーニングトン法星

私の名前は法星です。一般社会ではラナ・バーニングトンで知られています。私はカナダ人で生まれはカナダのカルガリーですが英国人でもあり、ロンドンに17年間住んでいます。

私が坐禅を始めたのはロンドンブリッジの直ぐ近くのグループからでしたが、これは直ぐ私自身の日常の習慣となり2003年には受戒し、2006年にフランスに居られる師によって得度しました。

私はロンドンで修行する時はグレイター・ブリティッシュサンガと共に、又フランスでは禅堂尼苑で、又私の師の寺の法林寺(これはフランスのカンタル地域にあります)でもします。

私はロンドンではキングズクロス駅の直ぐ北側で坐禅グループを指揮して毎日坐禅をし、又禅の修行の一環としてお袈裟や絡子を週末に丸一日を費やして縫います。これについては、zeninlondon.orgでご覧になれます。

私が洞松寺に来たのは3ヵ月の集中修行を経験したかったからです。ヨーロッパではこういう機会はありません。師は私が専門僧堂の修行を経験するのが重要と考えておられました。専門僧堂で女性を受け入れて、英語を訳すところは殆どありません。洞松寺はその数少ないリストのトップにあります。

洞松寺は仏道を修行する為の専門の所です。ここには世界各国から人が集まり堂頭老師の親切なご指導の下で修行をしています。ここでの修行は一つのことに集中したり、又、様々なことをしたりして沢山の事柄を学ぶ機会が提供されています。

これを書いている時点において私がここに来て2ヵ月になりますが、まだまだ学ばなければならない事が沢山あります。法堂での振舞い、木魚の叩き方、梵鐘の打ち方等の実務に加えて私達の修行の大半は他との調和、それに様々な雑儀の折にはお互い助け合うことでもあります。

洞松寺にいる外国の僧や尼僧の特徴の一つは皆40歳を超えていることで、50や60歳を超えている人もいます。ということは日本の僧堂での現実の生活は若い僧の人たちよりも骨が折れるようです。私の経験でいうと、私達は各々それなりにベストを尽くし、洞松寺からのサポートやお互いに助け合ったりしてスケジュールをちゃんとこなしているようです。

◆オランダ禅川寺徒弟　カスマン豊信

道元禅師の『正法眼蔵随聞記』について

先ず始めに、ここ洞松寺で3ヵ月修行させて頂いていることに感謝いたします。

私は、日本へ向かう一週間前に血液検査の結果が良くないと知らされました。私にとっては困難な時でした。病気が再発している時に出発するべきか、それともこちらに残って不快で時間のかかる治療をすべきかと。で、私は自分の人生をあるがままに十分に生きようと決めました。又興味深いことですが、私はこの病気によって随分助けられており、そのことに感謝しております。例えば人生は量より質が優先するということを学びました。

もう一度血液検査をすると少し良くなっているのが判りました。それで医者は出発の4日前に出発許可を出してくれました。私はここに来られて大変嬉しいです。

『正法眼蔵随聞記』についてのエッセーを書くのは容易ではありません。文章に堪能な偉大な師の言われたことについて書くなんて…結局私は、第1章の14について書くことにしました。というのもこれに感銘を受けたからです。

道元禅師は、ここで自分の身体を気にかけずに修行に打ち込む必要性を指示しておられます。そしてこれは人生で最重要なことだと。また坐禅の重要性も言明されています。そして各人が真摯にひたすら坐禅をすべしと。そうすれば必ず得道の時が来ると。

末期の病に侵されて自分の心身は定まりなく永久ではないという認識を常に抱いている私にとって人生でなにが優先するのか考えさせられました。そこで、道元禅師が強調しておられる修行と坐禅、そして道を得ることの緊急性、重要性について述べたいと思います。

師詠歌の練習にも参加

(安楽への門"仏道をならふというは、自己をならふなり。自己をならふというは、自己をわするるなり。自己をわするるというは万法に証せらるるなり。万法に証せらるるというは、自己の身心および他己の身心をして脱落せしむるなり。")各人が自身の身体でもってこのことを理解しなければならないというのは大事でデリケートなことです。私は、これに深く心を動かされました。道元禅師が奥深く行くには、自分の身心を容赦なく奮い起こすべしと述べられているこのテキストは私の心に響きました。

このことを考えてみて外単での坐禅のことが浮かんできました。初めそこではきちんと坐れませんでした。というのも私の中ではここは外国人用に制限されているのだという考えがあったからです。毎朝50分の坐禅の最初に浮かぶのでした。これまで私は30分の坐禅しかしておりませんでした。旦過寮の後僧堂に戻れた時は嬉しかったです。ところが数日後又外単に戻ることになりました。今度は私のそれに対する抵抗を捨ててちゃんとやってみようと決めました。勿論今では私は外単でもきちんと坐れます。これは如何に身心が働くかの小さな例です。私達は限界を推し進めないといつまでも決まり切ったやり方に留まってしまいます。限界を推し進めていくことによってのみ、又新しい世界が開けるのです。

九拝

修行僧の感想(抜粋)

大本山總持寺

(　)内は出身地と上山年度

●海外の方を多く受け入れる環境が整っている僧堂があることを初めて知りました。海外の方が日本の仏教に興味を持つ背景の一端に触れることが出来ました。(静岡県・28年)

●日本人としてお寺に生まれ育ちそこで生活してきた身として、仏教のドメスティックな側面(法要、檀信徒さんたちとの関わりなど)を主に考え、現代における「お寺の在り方」ということを考えていたが、強い求道心でもってはるばる専門僧堂へ来る外国人僧が多くいることによって、仏教の実践的側面について再認識させられた。自分は本山安居の最中で集団生活における社会性、協調性を強く意識していたが、仏道を修習し、自分の修行をするという禅の実践性という個人的な側面への意識もまた修行において必要であ

ると感じた。（宮城県・30年）

●鈴木老師の講話の中で「洞松寺の坐禅は言葉ではなく行動で学び得るものだ」と言われたこと。また「あれこれと迷うことなく、ただ素直に学ぶことが大切です」との教示がよかった。また、外国人の安居の体験の文には大変感動を受け、これからの修行の励みになった。（東京都・30年）

●洞松寺の紹介VTRを見させていただいたが、特に印象的だったのは首座法戦式の映像である。私が知っている法戦式となんら変わりはないのだが、問答を英語で行っていることに衝撃を受けた。不思議な空間のように思えた。海外寺院について少し興味がわいた。（福島県・30年）

●曹洞禅が海外に広く波及していることは知っていたが、海外の人からどのように見られているのか知らなかったので今回はそれを知るいい機会でした。これから禅の思想が海外にどのように活きていくのかが気になります。（北海道・30年）

●洞松寺の修行道場の日常の生活を観察させていただいたので、これからどういう風に曹洞宗がグローバルに順応できるのか考えさせていただきます。私も外国人として常にそのことを頭に入れて日本で修行に励んでいます。（ブラジル・29年）

●總持寺にも何名か海外の修行僧がいますが、ここまで曹洞宗が世界に浸透しているとは思いませんでした。最近の總持寺を見ても分かるように、修行僧の人数は年々減っているように思えます。ですので、このような形で曹洞宗が広まっていくのは嬉しく思えます。（北海道・30年）

大本山永平寺

（　）内は寮舎

●老師のお話は、洞松寺がどのような行持を行っているかより、どのような志を持った人がいるか、悟るための行いを求める姿勢が伝わり、素晴らしいなと感じました。公務が忙しいと考えがちな私ですが、修行の本来の目的を見つめる良い機会となりました。（法堂）

●講義中に流れた映像で、法戦式や輪読会が3ヵ国語で行われているのが印象的でした。閉塞された僧堂の中においてグローバルな試みがされ、洞松寺の方が世俗よりも進んでいるのが皮肉にも感じましたが、仏教を通じて日本の文化を欧米各国に知っていただく良い機会でもあり、良いことだと思います。（直歳寮）

●講義の中で映像を見て、数ヵ月前の海外研修報告会を思い出した。その時は海外の修行寺では、修行をするにはお金がかかるからと数ヵ月安居をしては仕事をしに山を下り、また数ヵ月すると安居しに戻ってくる。そういった生活を繰り返して自分の意志で修行をする姿勢というものが洞松寺に安居しに来ていた外国の方からも見ることが出来た。日本のお寺に生まれた人は大抵が一年で安居をやめてしまう。海外から来た人は何年も残る方が多いという所から、海外からの修行者はやはり意気込みが違うと感じられた。と同時にそういった人と一緒に近年話題になっている禅や仏教を布教していく足掛かりとなるのではないかと思った。（小庫院）

●外国人の洞松寺での修行の様子を見て、自分の永平寺での修行を見直すことが出来ました。洞松寺では日本人よりも外国人の安居者の方が長く安居すると聞いて、資格を取るためやハクをつけるために安居している我々日本人は、安居の在り方を考えなければならないと思いました。（法堂）

●洞松寺は世界各国から修行僧が集まっている僧堂で、とてもユニークなところだと思った。映像では、自分たちと同じお経を海外の修行僧の方も読んでいてすごいなと思った。自分が安居している永平寺以外の僧堂の話を堂頭老師から直接聞けるのはあまりないと思うので、とても貴重な経験になった。（法堂）

●私は昨年海外研修に行かせてもらったのですが、海外の方はやる気、発心が違いました。日本の僧堂では資格を取りに来ている人が9割なので積極性が欠けているように感じました。その点海外の信者の方の中で修行をすると自分がまだまだと感じ、自分も精進せねばと思い、間違えても声を荒げたりしない慈悲心に修行をしていて心地良いと感じました。いやいやではなく自ら進んで修行をしていく人が今の曹洞宗には必要だと感じました。（大庫院）

●個人的に海外布教活動や外国人の僧侶に興味があり、今回の講義を聞けて良かったです。体験談を聞けたことにより、より一層海外布教に行けた時のための勉強をしていきたいです。現地の言葉によるわかりやすい解釈や今永平寺で行持していることをしっかりと身に付けていきたいです。（法堂）

●海外の方々は、何かのきっかけで仏教を知り、発心を起こし修行しに来ています。資格や位など全く抜きにして自己を見つめる修行、道を究めるための修行をしている方々ばかりだと思われます。そのような人たちばかり集まる道場とはどのような雰囲気でどのような内容の修行なのか、大変興味を抱きました。法戦式で外国の方の言葉、意味を考え問答している映像に大変感動しました。いつか機会があれば洞松寺に行き、空気を味わってみたいと感じました。（後単侍）

●言語の壁を超えた心と心の通じ合いのような物を感じました。海外には多くの宗教が存在する中で、曹洞宗を知ってもらうことの難しさ、それは私達雲水の家に戻ってからの檀信徒教化などにも言えると思います。そのためにも、今、永平寺で立派に修行、安居生活に取り組み、お山を下りた時に一人の僧侶として見られるよう気を引き締めたいと思います。（小庫院）

●私自身海外での修行を望んでいますが、海外の方と修行をしたいのか、海外という場所に興味を惹かれているのか、それとも両方なのか、そしてそこに何を求めているかをもっと深く掘り下げたいと講義の中で思いました。また海外の方に何を求められ、今自分に何が出来るのかもよくよく考えてみたいなと思います。（布教係）

●海外の方が曹洞宗という宗教をどのように捉え、どのような考えの下で修行に取り組んでいるのか気になった。私達とは文化の違いがあり考え方も違うと思うが、他方面から宗教、曹洞宗について広まりを持てば、無宗教者が多いこの世の中であっても幅広く膨らみを持った宗教になっていき、布教という面においても世界へ広まりを見せて行けるのではないかと考える。（小庫院）

…海外レポート①…

北アメリカ国際布教総監部　現職研修会に出講して

菅原研州（すがわらけんしゅう）（愛知学院大学准教授・宮城県城国寺副住職）

2018年5月31日・6月1日の2日間、ロサンゼルス禅宗寺を会場に開催された、2018年度の北アメリカ国際布教総監部の現職研修会に出講いたしました。昨年度の御製袈のお話しに続いて2年連続となるもので、内容は「伝法式行法と室内三物」についてでした。

北アメリカの「伝法式行法」の実態については、日本に来て伝法された方が、熱心に現地へ伝えていると側聞しておりましたし、日本とは少し位置付けが異なりますが、弟子入りする際の儀礼として「伝戒式」も行われていると聞いておりました。また、日本では自身が式師となって「伝法式行法」を行う機会は、最近の弟子の減少に伴って、一生に一度あれば良い方という状況になっていると思います。しかし、北アメリカでは弟子が多くなれば、自ずと式を実施する機会も増えますので、日本の一般的な宗侶よりも熟達した方もおられるようです。

更に、正式な資格などを持たずに一座のリーダーとして指導するような人に対して、正式な国際布教師の中には、日本の江戸元禄期に起きた「宗統復古運動」に近いような運動を行う方もおられると聞いていました。以上のことから、全般的に伝法や伝法式に対しての意識は高いと思われました。

よって、筆者の役目は、現在の宗門が定めている行法を正確に伝えることと、講義前後の質疑応答の中で北アメリカの国際布教師の皆さんが、これらの儀礼をどう捉えているのかフィールドワークが出来れば良いと思っておりました。

講義そのものは、質疑応答も含めて順調に終わりました。通訳を行っていただいたマクマレン懐浄師に心から感謝いたします。懐浄さんは、筆者の出身地である仙台での生活も長く、講義終了後の打ち上げでは様々な思い出話をさせていただきました。

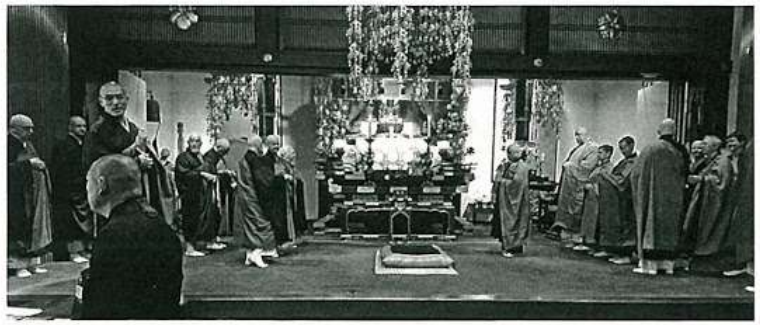
また、筆者が見聞した限りで、北アメリカの現状をご報告します。

まず、「室内三物」については、お持ちの方が多いようです。ただし、日本のものとは違って、全てアルファベット表記となっています。『血脈』『嗣書』については、人名は読み方に従い、下段文は英訳された文章が書かれています。また、『大事』については、本来様々な意味を持ち、解釈も多様なのですが、北アメリカでは特に曹洞五位説に従って、解釈されている場合があるようです。面山瑞方禅師『伝法室内密示聞記』（『曹洞宗全書』「室中」所収）の影響なのかもしれません。

それから、作法については先にも挙げた通りで、日本の一般的な宗侶よりも、より多くの回数を行う可能性があり、熟達する反面、作法の意義についての知識が通り一遍である印象も得ました。これは、自身、習った室内の家風を良く学び、伝えておられるという評価が出来ますが、一方で、日本であれば室内の作法を学ぶ文献として様々な切紙や解説書が揃っている状況に対し、それらが十分ではない海外という区分けが可能だと思います。必要であれば、『曹洞宗全書』に収録・刊行された「室内作法」に関する文献を中心に、英訳を進めるべきかと感じた次第です。

また、今後も、尊宿喪儀法や授戒会など、日本で行われる大規模な法要が実践される機会が増えることでしょう。その学びに、筆者が微力ながらでもお手伝いできるとすれば、これまで学ばせていただいたことへの恩返しになると思った次第です。

末筆ながら、今年度も講義でお招きいただいた北アメリカ国際布教総監・秋葉玄吾老師、そして総監部・禅宗寺の皆さま、現地での送迎の一切などをしていただいた曹洞宗国際センターの伊藤大雅先生に、心から御礼申し上げます。



北米現職研修法要

… 海外レポート② …

曹洞宗南米別院仏心寺の現在

佐藤鴻舟（富山県明禅寺住職）

私が28年前に渡伯して最初の一週間を過ごしたのが、ブラジルのサンパウロ市内にあるこの仏心寺でした。当時の仏心寺は今と違って、本堂は小さく法事後のお茶をふるまう所も狭い部屋でした。1995年には両大本山並びに地元の信者達によって寄付が集められて本堂が大きくなり、落慶法要が行われました。この頃は本堂の下が大広間で法要後のお茶や食事、文化行事並びに参禅会初心者用にまで使われていました。裏には広い駐車場がありましたが、2009年には両大本山はじめとし日本全国曹洞宗寺院と、その関係者またブラジル国内檀信徒の寄進によって地下一階地上三階建ての大鑑閣が建てられ、この時に行われた落慶法要には日本からも大勢の御寺院様の御随喜と檀信徒の御参列によって、今までブラジルでは見た事の無い素晴らしい法要が厳修されました。

今では以前の仏心寺を知る人は少なくなって来ましたが、時代の移り変わりと共に新たな形での布教活動が盛んに行われています。

法要行事では葬儀、法事、結婚式、御祈祷、略布薩、アバレシーダ観音法要、地蔵供養、盂蘭盆会、お彼岸会、ブラジルの万霊節の供養がありますが、葬儀と法事が年々減少しているのには色々な原因があるように思います。まずはブラジルという国はカトリックの国であって、日本仏教は後から移民と共にブラジルに入ったのであり、日本人が移民としてブラジルに来た際御仏壇や御先祖の御位牌を持ってきて御参りしていたところから始まったという事があります。今年はその日本移民が110年に当たる年でした。今は2世から4世の人たちがブラジル社会で活躍している時代です。この世代になると多くの人がカトリック信者になっていたり他宗教の信者になっていたりします。しかしそういった中にも、今でも仏教

サンパウロ、東洋人街にある南米別院仏心寺の山門

アバレシーダ観音法要に集まる人々

による法要を求めて来る家族も少なくはなく、例えばブラジルの万霊節には約120人の参詣者が来ますが、そのほとんどが2世から4世です。

毎月最週木曜日の正午に行われているアバレシーダ観音法要はお寺の前で行われていて、道行く人達が焼香した後にカレー・ライスの施食を食べて帰るのですが、そこには宗教の隔たりはありません。また、最週土曜日の夜のアバレシーダ観音法要では、参禅者達や道行く人たちが灯籠に思いを祈願しての法要が行われています。

結婚式については、年間を通して7組程あります。最近仏心寺で珍しい結婚式が行われました。ほかの宗教では聞いたことがありましたが仏心寺では初めてのかたちでした。同性愛者の結婚式です。普段の式と同じように執り行われ、一仏両祖の御前で二人の愛情を確認しつつ友達や家族に見守られながら、御先祖様への報恩感謝供養が行われました。

文化行事には料理教室、書道教室、梅花教室、文化祭、慈善バザー、毎月一回生け花教室があります。文化祭には書道教室、生け花教室の皆さんによる作品が展示され、同日には敬老会も行われ皆さんに観賞して頂いています。檀信徒以外の方が多い書道教室や梅花教室には、日系人以外の参禅者も参加しています。婦人部主催となっている慈善バザーでは一般のバザー・リスト（バザーで生活している）が出店して物を売るかたちで、参禅会（サンガ・カヤ）も参加しています。

坐禅会については月曜日の朝以外、毎朝6:20から坐禅と7:20から朝課を行っていて、参禅者として毎朝2～3人の参加があります。夜の参禅会は火・金曜日以外の毎晩18:20から19:30まで行っていて、水曜日と土曜日の初心者の日には多い時で50人を超える参加があり、現在使っている坐禅堂では間に合わない事もあります。

今、仏心寺では来年の60周年記念法要に向けて納骨堂と坐禅堂の拡張工事が始まっています。また、仏心寺が持つ隣の空き地では10月9日に総監老師の御導師のもと放光苑の地鎮祭が行われました。この放光苑には草木蓄霊魚霊塔を建立し、動物霊苑となる予定です。ブラジルではペットを家で飼う人が増えてきているのと同時にサンパウロ市街でペット霊園は少ないため、宗派問わず色々な方がお寺を訪れる事が期待できます。

最後になりましたが、日本でブラジルといえばまず治安の悪さとサンバ、そして大自然のアマゾンを思い浮かべる人は多いと思います。治安については失業者が増えている今は犯罪は多いのですが、各々が気を付けていれば生活は出来ます。特に仏心寺が置かれているリベルダーデ地区は比較的安全な場所です。来泊する事が有りましたら、是非とも仏心寺で曹洞宗僧侶の姿である坐禅で参禅会の皆さんとの興隆を持ってみてください。また違った面でブラジルを知る事が出来るかもしれません。来年の大法要の準備等で南米国際布教総監をはじめとし仏心寺護持会役員の皆様は忙しくしております。皆様の努力によっての有難い法要にまた一緒に、随喜できることを願っております。

… 海外レポート③ …

アイエア太平寺開創百周年記念慶讃法要に参加して

田宮隆児（SZI会長・新潟県雲洞庵住職）

平成30年11月4日、アイエア太平寺開創百周年慶讃法要がホノルル中心部のドール・キャネリーにて開催されました。当初太平寺では400名の参加を予定されていたそうですが法要間際に申込みが増え、収容人数上限の600名が集まり盛大に行事が行われました。当日の本法要では太平寺檀信徒総回向、開山歴住諷経、更に大本山總持寺監院乙川瑛元老師を導師にお迎えし開創百周年記念慶讃法要が厳かに行われました。4日の法要に先立ちアイエア太平寺では結制諸法要も行われ、更に開創百周年の記念事業として新たに建立された三十三観音の開眼供養も行われました。

日本からは第5世浅山賢榮老師、第7世篠田一法老師が御家族とともに御随喜されておりました。また梅花講関係など、太平寺とご縁の深い約50名の方が日本より参加されていました。私は太平寺3世（1965～1970）田宮黎友の弟子として師匠に代わり、母並びに自坊のお檀家さん方と共にこの度の法要に参加させていただきました。久しぶりに訪れた太平寺は、本堂、庫裏、旧日本語学校の校舎が私が幼少の頃の当時のままの姿で残っており懐かしく感じられました。

アイエア太平寺の前身は1904年に日本からマウイに向かう途中、当地に立ち寄られた植岡祖暁老師が砂糖耕地の中の住宅にて布教をされたことに始まります。その後1918年には津田黙龍老師が当地に赴任し、翌1919年にはホノルル・シュガーカンパニーよりリースされた土地にお堂を建立し開山となられました。1924年には大本山永平寺の北野元峰禅師並びに大本山總持寺の新井石禅禅師より「真珠山太平寺」という寺号を頂き、1926年に当時の統治政府よりSoto Mission of Aiea として認可されました。その後第二次世界大戦の苦難の時代を挟み、1927年より1965年までの約40年間に渡り第2世の吉住浩厳老師が大いに活躍され当時のメンバーの皆様とともに現在の太平寺の基盤を築き上げました

現在の太平寺は第9世、国際布教師駒形宗二老師の下、お寺の活動が盛んに行われています。通年を通しての法要、婦人会活動、梅花講、檀組、老若男女の和太鼓活動と地域との関わりも深く多くの方々がお寺に来られます。また駒形師は6ヶ月に渡る警察学校での研修を終えた後、2007年よりホノルル警察所所属のチャプレンとして活躍されています。普段はお寺の境内にパトカーを停め、任務の日には警察官の制服を身にまとい出掛けますが、まさに宗教者として社会に深く関わっているように感じられました。

法要、祝賀会と約5時間に渡る行事でありましたが、閉会直前に放映された太平寺の将来の展望を描いたビデオ映像の内容には具体性があり、これから10年、20年先の太平寺の活動に期待が膨らみました。

開山歴住忌　導師 駒形宗彦総監老師

… 国内レポート …

「第29回WFB世界仏教徒会議・第20回WFBY世界仏教徒青年会議・第11回WBU世界仏教徒大学会議 日本大会」報告

下 島 章 裕（公益財団法人全日本仏教会 広報文化部次長）

11月5日(月)～9日(金)にかけて「第29回WFB世界仏教徒会議・第20回WFBY世界仏教徒青年会議・第11回WBU世界仏教徒大学会議 日本大会」を開催し、各種会議・歓迎レセプションを千葉県成田市にあるマロウドインターナショナルホテル成田において、また世界平和祈願法要・記念式典・シンポジウムを大本山總持寺にて開催いたしました。

日本では10年ぶり4回目の開催となる本大会では、「Compassion in Action(慈悲の行動)」をテーマに掲げ、15の国と地域から約300名の仏教徒が参加し、仏教の示す大きな柱である「智慧」と「慈悲」の根底にある「縁」の教えに基づいた「慈悲の行動」について会議がなされました。

また、世界平和祈願法要では、世界の仏教徒とともに、国内の参加者600名が一堂に会し、世界平和と国内外で発生した災害で犠牲となられた多くの尊いいのちの追悼と被災地の早期復興を祈願いたしました。シンポジウムでは、「Creating Hope in Life and Death(生死の中に見出す希望)」をテーマとして、社会参画仏教(エンゲージド・ブディズム)という観点から、講師やパネリストが関わる活動について深く学びました。

本大会中に同時開催されている世界仏教徒青年会議では、世界仏教徒青年連盟(WFBY)日本センター・全日本仏教青年会(JYBA)の村山博雅師が、全体会議の執行役員選挙において、WFBYの新会長に選出され、満場一致で承認されました。日本、ひいては大乗仏教圏の僧侶が、WFBY会長に就任するのは、史上初の快挙です。

仏教界全体の具体的な今後の取り組みや本大会で採択される「宣言文」の内容について、各会議や委員会において諮られ、第2回全体会議にて、「2018年 東京宣言」として正式に採択され、今後2年間の仏教界全体の取り組みが議決されました。

この「宣言文」を受けて、本会をはじめとした日本の伝統仏教界が取り組むべき事項について、釜田隆文理事長より記者会見において以下の発表(一部略)をさせていただきました。

2018年 東京宣言
慈悲の行動
―生死の中に見出す希望―

釈迦牟尼仏陀は「生きとし生けるものが幸せでありますように」と仰いました。従って、私たち仏教徒はすべての衆生(生きとし生けるもの)の幸せを願います。この願いを現実のものとするために、第29回WFB世界仏教徒会議の参加者は以下のことを宣言します。

― 私たちは、無駄な消費の削減、リサイクル、再生可能エネルギー資源の採用など、環境に責任をもった生活スタイルを推奨します。

― 私たちは、洪水・地震・津波などの自然災害の被災者に必要な物資や心のケアを通して安心を与えることに尽力します。

― 私たちは、未来を担う子供たちの教育を支援します。世界仏教徒連盟(WFB)と世界仏教徒青年連盟(WFBY)は、2015年の地震によって教育の機会が奪われたネパールの子供たちの支援をしています。

― 私たちは、社会的に無視されている人々、個人的な危機に直面する人々、そして彼らの友人・家族にも希望を与える手助けをします。これは、過疎の地域に住む人々への支援や終末期ケアや介護の支援も含みます。

― 私たちは、固有の尊厳(本質的に備わっている性質)、平等性、すべての人類の基本的人権を支持します。例えば、多様性と受容性、非暴力(死刑、ロヒンギャ問題など)、社会的少数者(マイノリティーグループ:LGBTQなど)の権利の保護を促進し、難民を支援します。

― 私たちは、国連の持続可能な開発目標(SDGs)の実現を支援します。例えば、貧困集落が生活の質を改善し、収入を増やすことができるような実用技術を身に付ける手助けをします。

― 私たちは、諸宗教間の率直な対話、協働、平和的な協力を通して世界平和の実現を目指します。

WFB日本大会の様子

宣言文を述べる釜田理事長

SZI主催 海外子弟研修会報告

第3回 海外子弟研修会 in ハワイ 報告

2017年12月23日から29日及び2018年8月18日から23日に亘り、SOTO禅インターナショナル主催の第3回・第4回海外子弟研修会が開催されました。研修に随行した吉田宏得師と現地でご案内いただいた吉田宏慧師、並びに子どもたちの感想文を紹介いたします。

2017年度 第3回 海外子弟研修会開催報告

吉田宏慧（当時ハワイ総監部書記・静岡県萬松院副住職）

今回3回目となるSOTO禅インターナショナル主催の海外子弟研修会は前年に続き好評をいただきましたので同じくハワイのオアフ島で行われました。6人の子どもたちと一緒に12月23日から28日までの6日間、ホノルルにある曹洞宗両大本山ハワイ別院正法寺にて開催されました。

今回は「曹洞宗とハワイの文化に触れる旅」と題し、ハワイにある曹洞宗の姿を学ぶ他、ハワイの歴史・文化・風習に触れる研修でした。ハワイと一言でいうと、多くの日本の方々が連想するのはワイキキの青い海や緑の山に掛かる虹、そして常に暖かい気候に恵まれていることだと思います。もちろん、それもハワイといえばハワイですが、本当のハワイを学ぶには、観光客という立場から自分を一歩離し、現地の人たちの暮らしぶりを見て、勉強し体験することで初めてハワイというものを学ぶことができるのではないかと思い、今回のテーマにもあるように、曹洞宗とハワイの歴史を振り返りながら、今のハワイに住む人々の暮らしに迫りました。

海外子弟研修会の一日はその日その日で日程が異なっておりますが、テーマに沿った形で別院内での講義をはじめ、外での研修を行いました。例えば、講義としてはハワイのお寺の法要の形やハワイのお寺の歴史について、そして外での研修としてはハワイの曹洞宗寺院を訪問したり、ハワイ国際布教師の活動を見たり、坐禅を組んだり、他の宗教行事に参列したり、また博物館を見学したりと様々でした。

今回の研修で子どもたちが経験した多くのことをご紹介いたします。まずはじめに彼らが学んだことはハワイにある曹洞宗と日本にある曹洞宗との違いです。それは、ただ単純に地域の違いだけでなく文化や風習の違いによって同じ曹洞宗であっても、ハワイと日本では異なる活動や法要が行われているということです。日本国内でも地域性があると同様、国が違い文化も異なることによる教えの形は異なり、道元禅師や瑩山禅師の教えをより分かりやすい形で檀信徒の方々に伝える方法が築き上げられております。例えば、日曜日にはハワイでは日曜礼拝といい、檀信徒の方々が参列する週間行事があります。これは西洋の文化風習が曹洞宗の活動の中にも定着していったということです。このような変化を、郷に入れば郷に従うと一言で済ませてしまうのではなく、子どもたちには、なぜ曹洞宗がアメリカの文化や風習を取り入れなければならなかったのかといった視点まで理解してもらうために、歴史的背景を含めて勉強していただきました。

1903年にハワイに初めて曹洞宗の教えが届いた時代背景は、サトウキビ労働の契約移民時期であり、西洋の方々が住んでおりました。その中で、いかに異国の文化がその地の人々に理解され活動しやすい立場を作るかと模索された結果でもあると思います。それは、つまり日系社会がいかに異国の土地で社会的に認められていったのかというところまで理解を広げなくてはいけません。曹洞宗はハワイに根付いてから約115年が経ちます。その100年の間にいろいろな社会的・政治的・文化的変化が起き、それに順応するがごとく変わって行かざるを得ない状況で今の形が存在しているということです。そして先人たちの知恵と努力の結晶といえるものが今現在ハワイの曹洞宗に表れているということで、それを実際に見てもらうため日系墓地とアメリカ人というアイデンティティを取った日系人の多くが眠るアメリカ国立墓地(米国軍を務めた人のみが眠ることが許される墓地)を訪れました。アメリカ国立墓地は、日本では見ることがなかなかない、多民族の墓地であり、色んな宗教が入り混じった墓地であります。ハワイの墓地では、日本の墓石のように漢字で書かれている日系人のお墓の隣に、十字架が刻まれているお墓が並んでいたりします。それを見ることによって、ハワイのお寺で行われている多くの行事や檀信徒の方々との接し方が理解できるものだと感じております。そして、それを肌で体験して見てもらうために、他の曹洞宗寺院を拝登し、また国際布教師の活動も見てもらいました。

次に、日系社会を知るうえで重要なのが、彼らの移民当初の歴史と今現在の状況です。そしてそれを理解するためにはハワイの文化と歴史を学ぶ必要があります。まず、ハワイと聞いて多くの方が想像する伝統ダンスであるフラダンスを学びました。フラは元々男性が神を称え

2017年度 第3回 海外子弟研修会日程

12月23日(土)	成田空港集合、出発（機内泊） 同日朝　ホノルル国際空港到着、ハワイ別院正法寺へ ハワイ別院正法寺拝登、開講諷経、オリエンテーション、マキキ墓地参拝、アイエア太平寺檀家さんの招待(法要にも参加)
12月24日(日)	正法寺サンデーサービス(日曜礼拝見学)、オアフ島曹洞宗寺院視察(龍仙寺、大陽寺、太平寺)、パロロ禅センター訪問
12月25日(月)	クリスマスミサを見学、ハイキング(マカプウにて)、アイランドドライブ、総監主催ホリデーディナー
12月26日(火)	ハワイ文化講座（フラレッスン、ウクレレレッスン)、ワイキキビーチ海水浴など
12月27日(水)	ビショップミュージアム見学
12月28日(木)	ホノルル国際空港出発
12月29日(金)	成田空港着、解散
現地までの引率	淺井宣亮(SZI事務局長)
現地案内	吉田宏慧(当時ハワイ国際布教総監部庶務担当) 駒形宗二(当時ハワイ国際布教総監部書記)
参加者 (学年は当時)	奥山風雅(山形県高徳寺徒弟・大学1年) 岡部悦法(熊本県東向寺徒弟・大学1年) 清水正佳(愛知県観音寺徒弟・高校1年) 宮崎花香(岐阜県智照院子弟・中学3年) 池田倫子(山形県見龍寺子弟・高校1年) 池田楓子(山形県見龍寺子弟・中学2年)

るために行われていましたが今では女性の方が多いほどになりました。そして、フラやハワイ王朝の勉強をするのに最適な場所であるビショップミュージアムを訪れ、カメハメハ大王がハワイを統一する前の歴史から今に至る様々なハワイの歴史を勉強しました。一時期キリスト教宣教師によりフラダンスが禁止された時代もあり、それを知った時の子どもたちの反応は驚きでいっぱいでした。

また、研修期間がクリスマスということもあり、キリスト教の教会で行われていたクリスマスミサに参列しました。他の宗教がどのように法要を行い、どのような人々がどのような信仰心を持っているのかなど、多くのことを参加者には感じながら勉強していただきました。

全体を通してあっという間の6泊8日の研修ではありましたが、ハワイに植えられた曹洞宗の種がこの100年でどのように変わっていったのか、なぜこのように変わっていったかをハワイの歴史や社会を通じて学ぶ研修となりました。太平洋のど真ん中に浮かぶ小さな島でさえ、こんなにも歴史や文化が詰まっていることを学んでくれたのではないかと思っており、それが研修生の子どもたちにとって世界の広さを学び、これからの人生にとって大切な財産となっていくのではないかと思います。世界に羽ばたき明るい未来を作り上げてくれることを心から願い応援したいと思います。

駒形ハワイ国際布教総監のお話に耳を傾ける

ワイパフ大陽寺を訪問

しっかり坐禅もいたします

フラダンスの練習中

展望台で吉田宏慧師と

▶第3回 子弟研修会参加者の感想文（カッコ内の学年は当時のものです）

奥山 風雅（大学一年）

現在駒澤大学で仏教を学んでいる私にとって、今回の研修は衝撃的だった。日本のお寺では考えられない異文化に触れ、全身が刺激された。

お寺での日曜礼拝という特に印象的だったことがある。日曜礼拝というと日曜日にキリスト教徒の方々が教会に集い、歌を歌ったり祈りを捧げる、といったことを連想するだろう。少し話が逸れるが、私は音楽を専門に学べる学科がある高校で音楽を学んだ。将来は自坊を継ぎ、御詠歌を盛んにしていきたいと考えている。私がピアノで檀家さんと一緒に御詠歌を歌っていくのが将来の理想像だ。そんな理想像がまさにハワイのお寺では行われていた。今回はホリデーシーズンだったため実際に日曜礼拝に立ち会うことはできなかったのだが、まさかハワイのお寺では既に行われているとは想像もしなかった。正法寺で教えていただいた、それぞれのスタイルに合わせて考えていくことが大切、という話がある。ハワイに仏教を広めた初代住職さんのお考えだ。私が自坊を継げる頃の檀家さんのスタイルに合わせ、御詠歌を盛んにしていくと改めて決意する機会となった。

今回引率してくださった淺井さん、現地でお世話になった吉田さん、駒形さん、そして私と今回の研修を引き合わせてくださった大山さんをはじめ多くの方々に感謝を申し上げます。

合掌。

岡部 悦法（大学一年）

SZI主催の下、両大本山ハワイ別院正法寺で研修を行い、現地での曹洞宗寺院の在り方を学んできました。

ハワイに着き、最初に別院の正法寺に行き、建物の外装に驚かされました。日本のお寺とは異なり、インド風の外装をしていました。また、本堂は畳ではなく絨毯で、正座するのではなく教会にあるような椅子が並んでいました。教本にはローマ字で読み方が書いてあったり、法要の最初と終わりにオルガンに合わせて歌ったり、回向に英語を混ぜて言うなど現地の文化に合わせて多様に変化していました。ハワイに仏教が伝わり100年もの歳月をかけ変化したものを現地で学ぶことができ、現地でしか知れないものを知ることができたのでとても良い経験となりました。ハワイの仏教というものを知り、他の海外寺院ではどのように変化し、受け入れられているのかを知りたくなったので海外へ行く機会があれば足を運び体感したいと思います。

今回の研修では、正法寺やSZIの方々、親の支援なしでは体験することができなかったことばかりでした。正法寺に勤められている吉田さんには、現地での案内や身の回りのサポートをしていただきました。5日間という短い期間で仏教以外に文化や観光といったものを取り入れてくださりとても有意義な時間を過ごすことができました。百聞は一見に如かずといいますが、行かなければ知ることができないものばかりだったので、是非他の徒弟の皆さんにも参加していただきたいです。

清水 正佳（高校一年）

両大本山ハワイ別院正法寺で研修を行い、現地のことを色々と学んできました。

まず、ハワイに着き自分が泊まる別院の正法寺のほうに行きました。建物の外装を見ると日本のお寺と違い、まるで教会みたいな感じでした。中に入ると本堂には、畳が使われてなく椅子が並んでいました。経本は、日本の経本とは違い図鑑みたいな感じでローマ字で読み方が書いてあったり楽譜も書いてありました。現地でいろいろ学び、現地でしか知ることができないことを知ることができ、良い経験や色々と勉強になりました。

今回の研修では現地でお世話になった吉田さん、ありがとうございました。五日間という短い期間で、仏教のことや観光、文化のことを取り入れていただき、たのしい研修でした。それと、楽しい研修ができたのは大学生の二人がリードをしてくれたり、分からなかったことを教えてくれたりしてとても楽しい研修になってよかったです。皆さんも参加してみてください。きっと良い経験になると思います。

宮崎 花香（中学三年）

宗教を超えて

恥ずかしながら私、この研修の事を知るまでハワイに曹洞宗のお寺がある事を知りませんでした。はじめてハワイ別院正法寺を見た時、日本とはまるで違うインド様式といわれる外観、座席はキリスト教式、中央は仏教式というお寺の作りに驚きました。その荘厳さ、大きさ、世界に広がる曹洞禅を感じました。「すごい！」

この研修のなかで特に印象に残っているのはクリスマスミサを見学した時の事。教会に入るのは初めてだったので少し緊張しましたが、教会の皆様は満面の笑顔で私たちを迎え入れ、建物の中その一つひとつについて丁寧に説明してくれました。ただ申し訳なかったのは、たどたどしい私の英語を一生懸命に聞きとろうとしてくれたのですが、上手く伝わらなかったこと。「英語をしっかり勉強しよう！」と自分に喝をいれる。帰りがけ教会にいた全員で「メリークリスマス！」聞きなれているはずのその言葉がとても印象的で嬉しかったです。

ハワイで大切にされ続けている言葉『オハナ』それは人との繋がり。私はこの言葉とこの経験から学んだことをこれからの生活の糧にしたいと考えてます。

池田 倫子（高校一年）

今回のこの研修に参加してたくさんお話を聞いたり実際に見て学んだことは全てにおいて衝撃を受け、本当に有意義なものとなりました。

まず、仏教についての日本とハワイとの違いに驚きました。日本と全く同じようなお寺の形式を想像していたため、お寺の造りや和尚さんの着物の着こなし、法要の様子などあらゆる場合でハワイ、またその地に住む人々に寄り添う形となっていることが新鮮でした。その背景には労働者として移住してきた移民の存在があり、彼らがハワイのお寺の姿を作ってきたこと、そしてそれが現在にもつながっていることは本当にすごいことだと思ったし、ハワイの人々にとって仏教というのは身近にあり、とても大切なものなんだなと感じました。

また、研修を通してハワイの人々の温かみをとても感じました。素晴らしい自然と明るい人々であふれたハワイの魅力をたくさん知ることができたこの研修に参加できて本当に良かったです。ハワイでの感動は一生忘れられない素晴らしい体験になりました。この研修を支えてくださった方々に感謝の気持ちでいっぱいです。ありがとうございました。

池田 楓子（中学二年）

私は、昨年の研修にも参加し、二回目の研修となりました。ハワイでの訪問先は、昨年も行ったところが多かったけど、学ぶことがたくさんありました。日本とハワイのお寺の違いは昨年学びましたが、今年はハワイの中のお寺の違いにも気付くことができました。お寺を建てた時期によって造りが少し違っていたりなど、近年建てたお寺のほうが、日本形式から外れているということに気付きました。その他にもたくさんのことを学びました。

お寺のことだけでなく、キリスト教のクリスマスミサに参加したり、フラダンス体験をしたりなど多くの良い体験ができてよかったと思います。

また、ハワイの人達の優しさにはとても感動しました。その優しさがあったから、ハワイの素晴らしい文化が生まれたのだと私は思いました。

私は、この研修を通して、もっと海外のお寺について知りたいと思ったし、ハワイの文化についてもとても興味が湧いてきました。これからもっと勉強したいと思います。また、この研修を楽しく無事に終えられたのは、支えてくださった全ての人達のおかげです。本当にありがとうございました。

SZI主催　海外子弟研修会報告

第4回 海外子弟研修会 in ハワイ 報告

出発前成田空港での吉田宏得師、研修メンバーとご家族

駒形ハワイ国際布教総監とハワイ別院正法寺にて

到着早々の盆ダンスに積極的に参加

ワイパフ大陽寺にて小沢氏より日系の歴史を学ぶ

ハワイ出雲大社にて袴を着せてもらい、神妙な面持ちの一行

2018年度　第4回 海外子弟研修会日程

8月18日(土)	成田空港集合、出発（機内泊） 同日朝　ホノルル国際空港到着、ハワイ別院正法寺へ ハワイ別院正法寺拝登、開講諷経、オリエンテーション、盆踊り見学
8月19日(日)	正法寺サンデーサービス（日曜礼拝見学）、オアフ島曹洞宗寺院視察（太平寺、大陽寺、龍仙寺）
8月20日(月)	ビショップミュージアム見学（日系移民150年記念展）、アイランドドライブ
8月21日(火)	ハワイ日蓮宗別院参拝、ヌアヌパリ展望台・カイルアビーチ海水浴、ハワイ出雲大社参拝、宗派宗教交流会
8月22日(水)	ホノルル国際空港出発
8月23日(木)	成田空港着、解散
引率責任者	吉田宏得（元ハワイ総監部賛事・静岡県萬松院住職）
現地案内	吉田宏慧（ハワイ国際布教師 ハワイ別院駐在） 駒形宗二（ハワイ国際布教総監部賛事） 星野真隆（ハワイ国際布教総監部書記）
参加者 （年齢は当時）	高持利仁（大分県宝福寺子弟・15歳） 柴田典大（長崎県正應寺子弟・14歳） 阿部慎也（新潟県高蔵寺子弟・13歳） 宮崎花香（岐阜県智照院子弟・16歳） 久保井彩日（東京都大泉寺子弟・15歳） 水野愛子（静岡県新豊院子弟・14歳）

引率よりの御挨拶

吉田宏得（元ハワイ総監部賛事・静岡県萬松院住職）

この度、引率の世話役を担当しました吉田です。

2度目の参加者・ハワイに再訪問の参加者そして初めての参加者、更に海外初経験の参加者と互いに年齢的に近いが、持っている背景が異なり、且つ全国から集結してこの場が初めての交流の場、個々の立場で新たな経験と学習を重ねて貰えればとスタートした研修会。

余り締め付ける事も無く、自主性に任せ乍も着実にカリキュラムを進めて行きました。

子どもたちは、日毎に連帯感と親しみが湧き、仲間意識に包まれていた様です。しかし、私との年の差は45才以上、校長先生より年寄りですから、世代ギャップを感じながら子どもたちへどの様な気遣いをどの様にしたら？　また指示の出し方に、昔流になったら不愉快にならないかとか、ドギマギしていたのは私だけだったのかもしれないと、反省が残ります。

現地布教経験者でしか出来ない環境を活かして、子どもたちに良い体験を積んでもらおうと努めました。参加者一人一人の個性が、有意義に発揮され、個々の興味や関心が引き出される様に、ガイド役を務めたつもりです。

一人一人の心と脳裏に、将来に芽生える種を蒔く事は出来たと確信します。それに水と肥料を与えて頂くのは、親御さん始め関わる人生の先輩達です。これからも、良き花が咲く様に支えを宜しくお願いします。

萬松院　吉田　合掌

▶第4回 子弟研修会参加者の感想文（カッコ内の学年は当時のものです）

高持 利仁（高校一年）

今回のSZI海外子弟研修会に参加させていただき本当にありがたく思っております。

今回の子弟研修会で学べたことは『異文化交流』と『沢山の宗派と交流すること』です。

異文化の交流については初日にあった"盆ダンス"がとても心に残っています。私は踊らなかったのですが輪の外から見ていると、日本の盆踊りを、日系人の方だけでなく外国の方々が一緒に踊っているのを見て、日本の文化が他国に伝わっていることがすごいと感じました。

2日目には宿泊したハワイ別院以外のオアフ島にある3つの曹洞宗のお寺に訪問に行きました。その中で太平寺でみた和太鼓にもまた日本の文化が伝わっている事に感動しました。二つ目の大陽寺のまわりに一面に広がるサトウキビ畑は、移民の方が苦労して広げてきた事を聞き心に残っています。

次にパンチボールというクレーターの丘の中にある国立太平洋記念墓地に行きました。そこに何万とある戦没者のお墓を見て戦争の悲惨さを感じました。しかしその後、パンチボールの展望台からホノルルを見渡せる景色を見るととても綺麗でした。言葉が出ませんでした。

翌日朝課に出させていただいた時に日本の朝課と違うことがあって少し違和感を感じました。それは経本が大きくて外国の方でも読みやすいようにローマ字表記になっていて工夫されていることでした。またハワイのお寺は教会のような造りになっており、海外の方でも親しみやすい工夫が施されてるなと思いました。

翌日ビショップミュージアムに行きハワイ移民の歴史を学びました。今年でハワイ移民150周年らしく本格的に移民が行われた明治のかたを元年者（がんねんもの）というそうです。これをきっかけにハワイの歴史に興味を持ちました。さらにハワイの歴史を勉強し、次に来る機会があれば学んだ事を確認しながら周ってみたいです。

次に「多くの宗派に触れる」では、今回は日蓮宗とハワイ出雲大社に伺いました。出雲大社では袴を着るという一生に一度くらいの体験をしました。普段總持寺の鶴翔寮で過ごす中で衣やお袈裟をつける私にとっては全く縁のないものと思っていたのですごく貴重な体験ができたと思いました。

日蓮宗のお寺では曹洞宗と違うところに注目しながらと思いお邪魔しました。私が気づいた異なっている事は木魚ではない事と、リズムが少し異なっていること、導師が一番動作が多いということでした。曹洞宗には無いものがたくさんありました。さらに曹洞宗より高級感があるようにも思いました。

最後に今回の子弟研修会は私にとってすごく有意義な時間になったと思います。いままで以上に海外に興味をいだきました。またこのような機会があればもう一度挑戦してみたいです。引率していただいた吉田先生はじめSZIの皆様、現地でお世話していただいた方々、そして今回一緒に参加できた仲間たちにこころから感謝いたします。ありがとうございました。

高持利仁　九拝

柴田 典大（中学二年）

僕は、ハワイの研修を振り返って、「異文化」を実感しました。初めてハワイに来て、ハワイのお寺を見た時にお寺というより、教会に見えました。さらに中に入って見てみると、畳は一枚もなく、外人専用の長いすがありました。これらは文化の違う外国人になじみやすいように作られたと思いました。

印象に残ったのが日本の文化を好んで取り入れるハワイの人達でした。盆踊りがハワイでもあり、太こまであることには驚きました。特にハワイのかき氷は、シロップとソースが氷の半分以上もあり、まるでアメリカンな日本の文化でした。

僕はハワイに来て英語が不安でしたが、初めてハワイの人と英語で会話する時伝えようと思って、自分の思いを伝えたら会話が通じ、話がはずむことで、英語は楽しいと改めて思いました。この貴重な経験は、日頃の学校生活に生かしたいです。

阿部 慎也（中学二年）

私は今回のＳＺＩ主催の海外子弟研修に参加し、ハワイと日本の文化の違いを学びました。その中で特に印象に残った出来事が三つありました。

一つ目は盆踊りです。今回の研修で引率して下さった吉田先生に背中を押され、盆踊りの輪の中に入り、踊ることになりました。初めて見る盆踊りを上手な人を見ながら見様見真似で踊って難しかったけど楽しかったです。

二つ目は寺院視察です。太平寺、大陽寺、龍仙寺の三つのお寺を巡り、ハワイの歴史などをお話ししていただきました。その中で印象に残った話がハワイに日本人が布教をしに来た時に言語の壁があり大変苦労したのだという事です。そして仏教をハワイの人に馴染みのあるものにするため、本堂を畳ではなく絨毯にして椅子を置くように工夫した事も印象にのこりました。

三つめは日蓮宗別院参拝です。そこでは住職さんに曹洞宗と日蓮宗の違いを教えていただきました。絡子ではなく輪袈裟を身に着け、信仰の対象も曹洞宗は釈迦牟尼仏ですが日蓮宗は南無妙法蓮華経だという事を教わりました。

私は今回の研修へ行き、一年中暑いハワイで仏教がどのように浸透したのだという歴史が分かり、また個人的にとても勉強になったと思います。

また機会があったら参加したいです。

宮崎 花香（高校一年）

飛行機を降りた時、体にまとわりつくような熱気を感じ、私は今すぐにでも飛行機に乗ってハワイに引き返したいと思いました。それくらいハワイの方々が大好きになりました。このＳＺＩ研修に以前参加したのは冬だったので、またハワイの違った顔が見られるのだと私はとてもわくわくしていました。しかし、今回はこの中で最年長だったので緊張もありました。私が心に残っている事があります。みんなで踊った盆ダンスです。去年は経験できなかったことでしたし、ハワイのお寺にも盆ダンスがあるのだと初めて知りました。実際に踊ってみると、その踊りの上手さや歌は日本さながらで、みんな生き生きとしていました。振りが分からず困っている私を見ると、見ず知らずの人がよってきて丁寧に教えてくれたり、たくさんの優しさと文化に触れました。そして最も印象に残っているのは、他の宗派の方との交流です。日本では、ほかの宗派の方々と関わる機会が余りないのですがハワイでは全く違いました。全ての人達が助け合って生きている。そんな感じがしました。様々な宗派の方とお話をしてその宗派の文化を学んで。これこそがオハナだと思いました。この研修を通して私はハワイの文化、その地に住む人々の温かさを肌で実際に感じました。こんな素晴らしい経験が出来るのは一生に一度だと思います。私はこの出会いを大切にし、これからまた一歩前へと踏み出したいと思います。そしていつかまたハワイのオハナに会いに行きます。

久保井 彩日（高校一年）

私がハワイ研修会で学んだことは、たくさんの国の文化が混ざりあったハワイの文化です。

1日目の盆ダンス。日本でも盆踊りを見たり、実際に踊ったりすることはなかったので、余計に驚きました。いろいろな人種の人が同じ言葉を話して、一緒に櫓を囲んで、日本の曲で踊っていたからです。そして、2日目、3日目にお寺を回ったりビショップミュージアムに行ったりする中で、たくさんの文化が混ざりあったこれがハワイなんだなと思いました。

また、日本のような和の造りだと想像していたお寺もいろいろな宗教が混じっていました。キリスト教のように長椅子があったり、お経にはローマ字でルビがふってあったり、外観はイスラム教のようにしているという話も耳にしました。そうすることで、たくさんの人になじみやすくなっているんだと感じました。

一番驚いたのは、他宗派、他宗教とも深い関わりを持っているという事です。日本では考えられなかったので、他の宗派や宗教のことを学べるいい機会になりました。

初めてのハワイだったのですが、観光でハワイに行くだけでは絶対に知ることの出来なかったことや、経験することの出来なかったことをたくさん出来たので、自分にとってとても有意義な研修会になったと思います。

水野 愛子（中学三年）

私は今回ＳＯＴＯ禅インターナショナル海外子弟研修会に行かせていただき、ハワイにいる日系人の歴史やお寺の様子について学ぶことが出来ました。

今私は中学3年生でちょうど第二次世界大戦など戦争について学校で学んでいました。学校では日本や、韓国、中国などの日本に近い国のことしか学ぶことができていませんでした。

今回の研修会でハワイに住んでいる日系人が第二次世界大戦の真珠湾攻撃でどんな体験をしたか、環境や生活がどんなものであったのか知ることができてとてもいい経験になりました。また、もっと他の国にいた日本人にはどんな影響があったのか、もっと知りたいと思うようになりました。

ハワイのお寺では、ハワイの人に合わせ教会にあるような椅子が本堂にあり、お位牌堂も日本とは全く違う形で作られていて国が違うとその国に合わせて構造を変えるんだなと思いました。

また、日本のお寺とは見た目も全く違いここがお寺だと教えて頂かないとお寺と分からないようなものもあり、ハワイの文化に合わせているんだと感じました。

いくら宗教が同じでもその国ごとに現地の人に合わせたお寺になっているんだと感じました。

そしてハワイのお坊さんは、お檀家さんの病院のお見舞いや精神面も支えていて寄り添っていることに本当にすごいなと思います。

今回の研修会で多くのことを学ぶことが出来ました。日本では分からないハワイの仏教と日系人のお檀家様の信仰の深さを身近に感じることが出来ました。私も世界を感じながら日本の仏教や文化を大切に生活していきたいと思います。

会費納入者・賛助金納入者名簿　2017年11月1日～2018年11月30日まで

ありがとうございます。
大切に使わせていただきます。
（敬称略・会費納入順に掲載）

■ 助成金

曹洞宗宗務庁
大本山永平寺
大本山總持寺

■ 会費納入者ご芳名

千葉県市川市　石井清純
長野県伊那市　常円寺　角田泰隆
愛知県知多郡　黒澤一正
神奈川県横浜市　随流院
新潟県　第三宗務所
島根県安来市　松源寺
神奈川県川崎市　全龍寺
静岡県静岡市　元長寺
長野県松本市　正麟寺
神奈川県鎌倉市　龍寶寺
山形県酒田市　持地院
岐阜県岐阜市　智照院
群馬県伊勢崎市　昌雲寺
埼玉県行田市　龍泉寺
愛知県名古屋市　神蔵寺
新潟県新潟市　大梁寺
宮城県仙台市　大満寺
千葉県八千代市　観音寺
埼玉県行田市　霜雲寺
神奈川県足柄下郡　吉祥院
静岡県富士宮市　先照寺
青森県八戸市　大乗寺
静岡県藤枝市　盤脚院
千葉県千葉市　宗瓔寺
千葉県千葉市　満蔵寺
広島県広島市　聖光寺
三重県南牟婁郡　東正寺
群馬県太田市　伯オモロ
埼玉県羽生市　建福寺
愛知県名古屋市　長松院
神奈川県横浜市　倫善寺
東京都杉並区　西照寺
神奈川県横浜市　真昌院
山形県鶴岡市　龍蔵寺
静岡県静岡市　秋田新隆
埼玉県熊谷市　集福寺
宮城県仙台市　秀林寺
宮城県名取市　円満寺
長野県佐久市　山本鏞善
山形県東田川郡　宝泉寺
大分県宇佐市　宝福寺
愛知県豊田市　天徳寺
愛知県名古屋市　龍潭寺
栃木県那須郡　乾徳寺
愛知県瀬戸市　寶泉寺
宮城県加美郡　普伝寺
愛知県愛西市　一心寺
福島県郡山市　㈱ピーエス観光
群馬県安中市　宗泉寺
東京都台東区　玉宗寺
埼玉県上尾市　東榮寺
神奈川県横浜市　永明寺
秋田県秋田市　補陀寺
秋田県山本郡　松庵寺
東京都中野区　宗清寺
福島県福島市　円通寺
埼玉県比企郡　東昌寺
神奈川県横浜市　善光寺
神奈川県横浜市　中野東禅
千葉県袖ケ浦市　真光寺
埼玉県川口市　円通寺
群馬県高崎市　仁叟寺
神奈川県横浜市　大蔵寺
秋田県潟上市　自性院
長崎県佐世保市　青眼寺
岡山県小田郡　洞松寺
福島県郡山市　長泉寺
茨城県笠間市　龍泉院
静岡県浜松市　栄林寺
東京都港区　俊朝寺
静岡県焼津市　盤石寺
東京都八王子市　大泉寺
埼玉県行田市　長光寺
静岡県静岡市　宗徳院
東京都多摩市　高西寺
東京都港区　龍澤寺
秋田県横手市　満福寺
東京都八王子市　龍見寺
神奈川県横浜市　正翁寺
群馬県高崎市　長年寺
神奈川県横浜市　東林寺
福島県耶麻郡　天徳寺
愛知県豊田市　永澤寺
北海道野付郡　長福寺
京都府京都市　宗仙寺
静岡県静岡市　洗耳寺
長崎県佐世保市　洞禅寺
静岡県浜松市　高林寺
神奈川県鎌倉市　大船観音寺
東京都武蔵野市　観音院
東京都世田谷区　瀧照寺
岩手県久慈市　長福寺
秋田県秋田市　天龍寺
長野県松本市　廣澤寺
山形県鶴岡市　山形県第三宗務所
茨城県筑西市　茨城県宗務所
愛知県豊田市　神龍寺
山口県周南市　華蔵寺
静岡県焼津市　林叟院
神奈川県横浜市　天徳院
静岡県伊東市　内山秀三
大分県由布市　佛光寺
京都府宇治市　興聖寺
宮城県栗原市　城國寺
岩手県滝沢市　清雲院
新潟県新潟市　佐藤慈真
山形県西村山郡　清龍寺
富山県高岡市　明禅寺
山形県最上郡　清林寺
静岡県磐田市　新豊院
石川県金沢市　大乗寺
福島県本宮市　石雲寺
長野県塩尻市　興龍寺
静岡県駿東郡　秀源寺
秋田県横手市　寿松木宏毅
北海道釧路市　定光寺
群馬県桐生市　祥雲寺
静岡県静岡市　浄元寺
神奈川県平塚市　浄心寺
北海道根室市　北海道第三宗務所
長崎県諫早市　正徳寺
静岡県藤枝市　洞雲寺
東京都町田市　宗保寺
群馬県安中市　雲門寺
鳥取県倉吉市　大岳院
新潟県南魚沼市　雲洞庵
東京都文京区　紅岸寺
秋田県秋田市　桑福寺
群馬県沼田市　龍華院
神奈川県横浜市　傳心寺
北海道紋別郡　明光寺
宮城県仙台市　東北福祉大学
静岡県富士宮市　髙松院
静岡県浜松市　大昌寺
宮城県東松島市　芳昌院
静岡県富士宮市　重林寺
東京都世田谷区　駒澤大学高等学校
静岡県伊豆の国市　成願寺
愛知県名古屋市　㈱安江
静岡県焼津市　信香院
秋田県大仙市　満友寺
埼玉県深谷市　善清寺
大阪府堺市　吉祥院
東京都北区　静勝寺
鳥取県米子市　中部宗教化センター
神奈川県秦野市　泉秋寺
秋田県能代市　長慶寺
福島県伊達市　安禅寺
宮城県仙台市　洞林寺
埼玉県熊谷市　岸世一
愛知県安城市　慈光院
京都府亀岡市　苗秀寺
東京都北区　秋葉玄吾
東京都新宿区　太田賢孝
東京都江東区　善徳寺
長崎県諫早市　妙本寺
宮城県仙台市　洞雲寺
埼玉県鴻巣市　宝持寺
愛知県名古屋市　春江院
千葉県白井市　佐藤信嗣
群馬県甘楽郡　峰岸正典
神奈川県横浜市　成願寺
東京都八王子市　信松院
群馬県高崎市　東善寺
愛知県豊橋市　西光寺
福島県福島市　仏母寺

■ 賛助金納入者ご芳名

千葉県市川市　石井清純
神奈川県横浜市　随流院
島根県安来市　松源寺
神奈川県川崎市　全龍寺
千葉県八千代市　観音寺
青森県八戸市　大乗寺
静岡県藤枝市　盤脚院
千葉県千葉市　宗瓔寺
愛知県名古屋市　長松院
東京都杉並区　西照寺
山形県鶴岡市　龍蔵寺
宮城県仙台市　秀林寺
宮城県名取市　円満寺
大分県宇佐市　宝福寺
栃木県那須郡　乾徳寺
愛知県瀬戸市　寶泉寺
宮城県加美郡　普伝寺
福島県郡山市　㈱ピーエス観光
群馬県安中市　宗泉寺
神奈川県横浜市　永明寺
秋田県秋田市　補陀寺
東京都中野区　宗清寺
埼玉県比企郡　東昌寺
千葉県袖ケ浦市　真光寺
秋田県潟上市　自性院
長崎県佐世保市　青眼寺
岡山県小田郡　洞松寺
福島県郡山市　長泉寺
茨城県笠間市　龍泉院
静岡県浜松市　栄林寺
東京都港区　俊朝寺
東京都八王子市　大泉寺
埼玉県行田市　長光寺
静岡県静岡市　宗徳院
秋田県横手市　満福寺
福島県耶麻郡　天徳寺
京都府京都市　宗仙寺
静岡県静岡市　洗耳寺
神奈川県鎌倉市　大船観音寺
東京都世田谷区　瀧照寺
秋田県秋田市　天龍寺
長野県松本市　廣澤寺
静岡県焼津市　林叟院
神奈川県横浜市　天徳院
静岡県伊東市　内山秀三
宮城県栗原市　城國寺
岩手県滝沢市　清雲院
福島県本宮市　石雲寺
北海道釧路市　定光寺
群馬県桐生市　祥雲寺
長崎県諫早市　正徳寺
静岡県藤枝市　洞雲寺
新潟県南魚沼市　雲洞庵
東京都文京区　紅岸寺
群馬県沼田市　龍華院
宮城県仙台市　東北福祉大学
愛知県名古屋市　㈱安江
秋田県大仙市　満友寺
大阪府堺市　吉祥院
東京都北区　静勝寺
愛知県安城市　慈光院
東京都新宿区　太田賢孝
長崎県諫早市　妙本寺
埼玉県鴻巣市　宝持寺
愛知県名古屋市　春江院
群馬県甘楽郡　峰岸正典
神奈川県横浜市　成願寺

第15回「禅といま」寒中勉強会

対談　谷川俊太郎先生 × 藤田一照老師

「詩人と禅僧 自己をならう」

平成31年2月4日（月曜日・立春）14時より　13時20分～ 開場・受付開始

［会場］東京グランドホテル 3階 桜の間
〒105-0014 東京都港区芝2-5-2 TEL 03-3456-2222

［受講料］3,500円

《申し込み方法》 官製葉書に、受講される方の住所・氏名・電話番号をお書きの上、〒162-0053 東京都新宿区原町2丁目62番地 大龍寺内「禅といま」推進委員会 SZI係までお送りください。1枚のハガキで複数名のご応募が可能ですが、全員分の必要事項をご記載下さい。
1月19日必着。応募者多数の場合は「抽選」。抽選結果を後日送付させていただきます。
メールでのお問い合わせ／zentoima@ybb.ne.jp

主催者▶「禅といま」推進委員会　https://nowjikon.wixsite.com/zentoima　https://www.facebook.com/zentoima/
後援▶曹洞宗・クラブツーリズム　**事務局▶**「禅といま」推進委員会 事務局　〒162-0053 東京都新宿区原町2丁目62番地 大龍寺内（太田）
TEL・FAX 03-3207-0770　E-mail zentoima@ybb.ne.jp

国内ニュース

SOTO禅インターナショナル REUNION 2018 in 伊香保温泉 結集

2018年10月24日、伊香保温泉「玉樹」にて、SOTO禅インターナショナル REUNION 2018が開催されました。小笠原隆元先生の傘寿の祝賀を兼ねた同会には12人が参加し、おおいに久々の交流を楽しみました。写真上段左より大場満洋師、浅井宣亮師、飯島尚之師、工藤正典師、福島伸悦師、葉貫成悟師、細川正善師、下段左より細川浩代さん、永井成典師、小笠原隆元先生、小笠原孝子夫人、古渓繁子夫人。来年は長野開催になりそうです。

動静報告
2017年12月～2018年11月

12月23日（土）～29日（金）
　海外子弟研修会　（ハワイ）
1月18日（木）
　役員会　（檀信徒会館 梅の間）
2月5日（月）
　総会　（檀信徒会館 菊の間）
　懇親会　（ブランコ）
8月18日（土）～8月23日（木）
　海外子弟研修会　（ハワイ）
9月3日（月）
　大本山總持寺ワークショップ　（大本山總持寺）
9月5日（水）
　大本山永平寺ワークショップ　（大本山永平寺）
10月24日（水）、25日（木）
　SZI REUNION　（伊香保温泉 玉樹）
11月15日（木）
　編集会議　（新潟市 イタリア軒）
11月26日（月）
　役員会　（東京駅）
なお、随時インターネットで役員会を開催いたしております。